

9-I クリ(栗)の巨木

ブナ科クリ属
Castanea crenata

■クリの巨木は以下に分類する。

- 9-I-1 シバグリの巨木
- 9-I-2 タンバグリの巨木
- 9-I-3 シダレグリの巨木

■シバグリは天然のクリ。■タンバグリは、大阪府歌垣村倉垣で発見された品種が原種。主に丹波・篠山地方で栽培された品種が有名になり、全国に広まる。■シダレグリはシバグリの突然変異種。稀に見られ、群生するものは国指定天然記念物。

クリの巨木位置図



9-I-1 シバグリの巨木

■シバグリの巨木評価基準

A 幹周おおむね 8m 以上の単幹樹、同等評価のシバグリの巨木。

B 幹周おおむね 6～8m の単幹樹、同等評価のシバグリの巨木。

C B 評価以下のシバグリの巨木。

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	白岩岳のクリ 写真 SK-001	M8.03m(1.0m 2009)	20m	秋田県仙北市角館町 白岩岳中腹	なし
A	大井沢の大クリ 写真 SK-002	M8.02m(1.3m 2008)	15m	山形県西村山郡西川町大井沢	町
B	薬研のおぐり 写真 SK-003	M7.82m(1.3m 2007)	27m	青森県むつ市大畑町薬研	なし
B	石伏旧若宮八幡神社の大クリ 写真 SK-004	M7.65m(1.3m 2009)	18m	福島県南会津郡只見町石伏	町
B	嶺方のクリ 写真 SK-005	M7.14m(1.3m 2014)	14m	長野県北安曇郡白馬村北城字嶺方	村
B	市野々の大クリ 写真 SK-006	M6.8m(1.3m 2008)	15m	岩手県九戸郡軽米町市野々	町
B	大洞のクリ 写真 SK-007	M6.07m(1.3m 2007)	18m	岐阜県下呂市小坂町大洞字中重	県
B	長泉寺のオバケ栗 写真 SK-008	M5.86m(1.3m 2014)	28m	福島県二本松市百目木字向町	なし
B	赤城山のクリ 写真 SK-009	6.7m	15m	群馬県前橋市富士見町赤城山	なし
C	上小池の大栗 写真 SK-010	M5.6m(1.3m 2007)	18m	福井県大野市上打波上小池	なし
C	豊牧のクリ 写真 SK-011	5.7m	20m	山形県最上郡大蔵村豊牧	なし
C	仁平栗 写真 SK-012	5.5m	14m	山形県西村山郡中山町落合	町
C	秋神温泉の栗 写真 SK-013	5.4m(0.5m)	20m	岐阜県高山市朝日町胡桃島	市
C	仏の尾のクリ 写真 SK-014	5.4m	20m	兵庫県美方郡香美町小代区佐坊	なし
C	相馬神社のクリ 写真 SK-015	4.29m	15m	北海道札幌市豊平区平岸 2 条 18 丁目	なし
C	太夫栗 写真 SK-016	5.52m	8m	秋田県能代市柳町 3-13	市
C	一本栗地主神社の栗の木 写真 SK-017	4.9m	14m	北海道亀田郡七飯町大川 9 丁目	町
C	昭和の森のクリ 写真 SK-018	4.87m	18m	北海道江別市西野幌 野幌森林公園	なし
C	赤城の栗太郎 写真 SK-019	3.8m	12m	群馬県前橋市富士見町赤城山	なし
C	銚子ヶ淵のクリ 写真 SK-020	M4.5m(1.3m 2008)	25m	岐阜県郡上市白鳥町野添川端	県
枯死	白岩岳尾根のクリ 写真 SK-021	M6.75m(1.3m 2009)	不明	秋田県仙北市角館町 白岩岳尾根	なし



写真 SK-001
 日本一のクリ
しらいわだけ
 白岩岳のクリ

発見当時の幹周は8.1mで、日本一のクリとされたが、その後山形県の大井沢の大クリが幹周8.5m※と発表されて日本一の座を降りた。2008年に大井沢の大クリを調査、M式で測定すると8.02mであり、白岩岳のクリがやはり日本一だったかと思われた。

2009年に白岩岳の大クリの調査を行った。幹周M8.03mという結果。背後にアテを巻込んでいる(下写真)ので多少太くなり、大井沢の大クリと同格と判断した。道はなく、ガイド無しには到達できない白岩岳尾根の山中にある。主幹は3mの分岐部で折れ、根元に倒れている。

このクリの尾根真下30mに枯死した「白岩岳尾根のクリ」(写真SK-021)があり、目印になる。

※幹の凹凸に沿っての測定か?。



▲白岩岳のクリ(尾根下より撮影)



◀写真 SK-021
しらいわだけ おね
 枯死・白岩岳尾根のクリ

白岩岳のクリ取材の折に見つけたもので、白岩岳のクリの尾根直下であり、目印になる。すでに枯れているようだが、幹は完全に残っていて、クリの木の堅牢さを物語っている。

写真 SK-007▶

おおほら
 大洞のクリ

伝説では源平合戦時、落武者が植えたと言えられる。





写真 SK-002

日本一タイのクリ

おおいざわ

大井沢の大クリ

クリの日本一の座は、ここ20年程で何度も変遷してきた。筆者が巨木調査を始めた頃の日本一は、

●岩手県の幹周 M6.8m「市野々のクリ」であった。

●その後、青森県の幹周 M7.8m「薬研のおぐり」になって、

●前々の「白岩岳のクリ」そして、

●「大井沢の大クリ」になった。そして、調査の結果、白岩岳と大井沢を同格と判断した。

大井沢の集落の中程から林道に入って数分、広場に車を止め、藪の中に入ると通行止めの林道に出る。少し登ると高台立っている。

(下写真・全景)



◀写真 SK-003

やげん

薬研のおぐり

薬研の野営場から林道を進み、遊歩道を登ると立つ。地上2mで2分岐する樹形。分岐幹は3分岐と2分岐し、すこぶる高く枝葉を伸ばしている。現在は展望台が設置されている。

写真 SK-008▶

ちょうせんじ

長泉寺のおバケ栗

長泉寺の墓地の中にある巨大なクリの木





▲写真 SK-004

いしぶしきゅうわかみや
石伏旧若宮八幡神社の大クリ

神社跡地の裏山を進むと斜面に立っている。地上3mで3分岐し、大枝が何本か折れている他は健在だ。根元北側に空洞が見られ、東側上部2mに大きな幹があった痕跡が残る。かつては素晴らしい樹冠を呈していた事が偲ばれる。



▲写真 SK-005

みねかた
嶺方のクリ

民家の敷地に立ち、背後に大きなイチイを抱き込んでいる。

◀▼写真 SK-006
いちのの
市野々の大クリ

かつて日本一の大クリと騒がれた事で、訪れる人が随分あったようで、整備された様子が残されているが、日本一の座を降りてから、訪れる人も無くなり、周辺は荒れ放題になっている。この地を「天狗」と呼ぶのは、この大クリが地元では「天狗様」と呼んで、崇めているということだ。天狗の鼻のような巨大な幹が根元近くから出ている。その名残が残っている。(下写真)





▲写真 SK-009
あかぎやま
赤城山のクリ

姫百合駐車場から赤城山に向けて車で1分程の道路脇にあり、カエデ、ケヤキが着生している。



▲写真 SK-010
かみこいけ おおぐり
上小池の大栗

上小池の終点登山口駐車場から、登山道を少し降りた場所に立つ。3mで2分岐する。



▲写真 SK-011
とよまき
豊牧のクリ

五郎八沼という用水池のほとりに立つ見事な単幹クリである。(写真・石田徹)



▲写真 SK-012
じんべいぐり
仁平栗

(写真・Web 画像)



▲写真 SK-013
秋神温泉の栗

(写真・Web 画像)



▲写真 SK-014
ほとけのお
仏の尾のクリの木

標高 1227m、仏の尾の尾根にある。(写真・Web 画像)

▼写真 SK-015
そうま
相馬神社のクリ

(写真・Web 画像)



▼写真 SK-016
たゆうぐり
太夫栗

(写真・Web 画像)



▼写真 SK-017
いっぼんぐりじぬし
一本栗地主神社のクリの木

(写真・木々の移ろい・HP・西村)





▲写真 SK-018
しょうわ
昭和の森のクリ

自生北限付近のクリの巨木で、野幌森林公園内、徒歩20分。(写真・Web画像)



▲写真 SK-019
あかぎ くりたろう
赤城の栗太郎

赤城森林公園内には何本ものクリの巨木があり、その最大株である。(写真・Web画像)



▲写真 SK-020
ちようしがふち
銚子ヶ淵のクリ

貴船の森公園から山道を進むと、谷側のほとりに立っている。

9-I-2 タンバグリの巨木

※タンバグリは、大阪府歌垣村倉垣で発見された品種が原種。主に丹波・篠山地方で栽培された品種が有名になり、全国に広まる。果実が大きく、味もよいが、保存性に欠ける。その後、多くの改良種が作られている。

■タンバグリの巨木評価基準

- A 幹周おおむね6m以上の単幹樹、同等評価のタンバグリの巨木。
- B 幹周おおむね4~6mの単幹樹、同等評価のタンバグリの巨木。
- C B評価以下のタンバグリの巨木。

■主なタンバグリの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	日根牛の大クリ 写真 TK-001	M6.02m(1.3m 2014)	12.5m	宮城県登米郡登米町日根牛	県
B	白沢の大栗 写真 TK-002	M5.7m(0.5m 2008)	11m	長野県伊那市西春近道端	県
B	南原の大栗 写真 TK-003	M5.57m(1.3m 2014)	20m	山形県米沢市李山	なし
B	弥四郎の大栗 写真 TK-004	M5.4m(1.3m 2007)	17m	石川県白山市一里野伍和	村
B	阿智の大栗 写真 TK-005	M5.2m(1.3m 2009)	15m	長野県下伊那郡阿智村	村
B	平子のタンバグリ 写真 TK-006	5.1m	10m	広島県庄原市西城町平子字馬場瀬	県
B	二軒在家の大クリ 写真 TK-007	5.0m	15m	福島県喜多方市岩月町宮津字惣社原	市



▲写真 TK-001
ひねうし
日根牛の大クリ

真田家の屋敷内に立つ。かつて寺院境内にあり、そのまま残されたという。(右上写真・果実)



▲写真 TK-002
しらざわ おおぐり
白沢の大栗

彼岸栗というタンバグリの品種で、城倉氏の先祖が植えたものという。2mで2分岐し、主幹は3mで4分岐する。

▼写真 TK-004
やしろう おおぐり
弥四郎の大栗

仁王立ちになった姿は見事だ。温泉施設の裏手にあり、持ち主も同じ。入るには許可がいる。江戸時代に地元の弥四郎が植えたという。



▲写真 TK-003
みなみはら おおぐり
南原の大栗

県道沿いの民家の広い敷地に立つ、樹形が美しい大丹波の巨木である。(写真右・果実)





▲写真 TK-005
あち おおぐり
阿智の大栗

現在もよく結実し、秋の樹下には見事な毬が散乱し、実もかなり大きく味も美味しい。(写真右上・果実)

▲写真 TK-007
にけんざいけ
二軒在家の大クリ

瓜生家の畑に立つクリの大木。2mで四方に枝葉を広げ、枝張りは、東西22m、南北25mという素晴らしい大クリである。京都御所から苗木を運んだものと伝えられる。(写真・石田徹)



◀写真 TK-006
ひらこ
平子のタンバグリ

民家の庭先に立つタンバグリの巨木。(写真・Web画像)

9-I-3 シダレグリの巨木

※シダレグリは天然種シバグリの突然変異で、枝が柳のように枝垂れる品種。稀に見られ貴重な自然遺産である。群生地は国の天然記念物指定を受けている。よって、群生するものはA評価、単独はB評価とした。

■主なシダレグリの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	小野のシダレグリ(最大株) 写真 SHK-001	4.4m	不明	長野県上伊那郡辰野町小野	国
A	竹原のシダレグリ(最大株) 写真 SHK-002	2.0m	5m	岐阜県下呂市宮地川合平	国
B	入山世立の枝垂れ栗 写真 SHK-003	M3.1m(1.3m 2012)	7.5m	群馬県吾妻郡大合村大字入山字世立	県
B	鬢垂のシダレグリ 写真 SHK-004	株周 4.0m	8m	秋田県大仙市協和船岡字庄内鬢垂	県
B	馬頭院のシダレグリ 写真 SHK-005	2.8m	7m	栃木県那須郡那須川町馬頭	県



写真 SHK-002▶
たけはら
竹原のシダレグリ

国道から15分程登った所に約80本の群落があり、その中の最大株。(写真・Web画像)



◀◀写真 SHK-001
おの
小野のシダレグリ

しだれ栗森林公園内、天狗原の西斜面に約800本の群生があり、その内の最大株。(写真・Web画像)



▲写真 SHK-004
びんだれ
鬚垂のシダレグリ

四国から訪れた巡礼僧が、飛騨から持込んだ種を植えたものという。(写真・Web画像)

▲写真 SHK-003
いりやまよたて しだれ ぐり
入山世立の枝垂れ栗

標高1,000mの集落の外れ、見晴らしのよい高台に立つ。主幹内部は空洞化しているが、枝垂れた枝は地面に着く程に伸びて、樹勢はよい。左巻に振じれて、6mで2分岐、先端の幹は振じれて奇怪だ。

写真 SHK-005▶
ぼとういん
馬頭院のシダレグリ

境内、石段の脇に立ち、主幹のほとんどは朽ちて、分岐幹が生きている。(写真・石田徹)

